

祥明大學校短期研修に参加して

総合管理学部総合管理学科1年 野嶋秀華

長いようで短い、祥明大学での七泊八日韓国研修を終えることができました。私は入学当初から参加への期待を膨らませていました。高校時代、私はラオスでのホームステイを経験しました。そこでの経験が、まだ日本という国しか知らない自分を奮い立たせたのです。そこで、この韓国研修にも参加してみようと思いました。始めは研修団の中に知り合いがおらず不安にもなりましたが、共に行動するうちに打ち解け、研修団内でも年代を越えた交流ができ、社会勉強になりました。今回の研修では、またラオスとは違った文化や価値観がもちろんあり、考え方に大きな影響を与えました。また、自発的な行動や言動の大事さ、自己管理の大切さ、国境を越えた友情や家族愛の素晴らしさなどを再確認することができました。



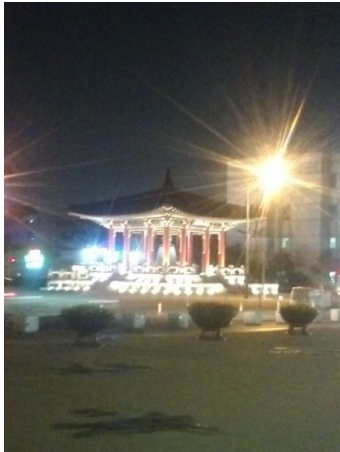
景福宮にて



ロッテワールドにて

私のホームステイ先のスルギさんは大学に通うため、お姉さんたちと三人暮らしをしていました。お姉さんたちもみな、日本に本当に興味があるようで、私の到着を心待ちにしてくださいました。日本で務める看護師を目指すお姉さんがいらっしやり、看護の勉強と並行して日本語(漢字)を毎日深夜まで勉強されていました。本当に熱心で、かつ日本語も上手だったので、日本の外国人労働者雇用も領けてしまう部分がありました。私も含め、日本人も韓国人の熱心さは見習わなければならないと思います。また、韓国人は自分の思っていることをはっきり言う方々が多く、「お世辞」や「本音と建前」の文化を持つ日本との違いを感じました。そして、時間に関しても韓国は多少ルーズであるとスルギさんが教えてくれました。スルギさんにとって、日本は時間に縛られすぎていると感じるそうです。しかし彼女は本当に日本が大好きで、そこも日本の魅力だと言います。韓国は韓国の、日本には日本の文化があり、価値観があり、それが「普通」なのです。だからこそ、お互いを理解し認め合うことが必要なのではないのでしょうか。そのためには、コミュニケーションが必要だと思います。考えを相互に共有するべきだと考えます。こんなにも祥明大学のみんなと仲良くなれたのは、意思疎通がうまくいったからだと思います。韓国と日本、国籍は違っても、同じ年代の学生として意見が共感

するところがたくさんありました。まるで親友であるかのような、そんな温かさを覚え
ました。そして、韓国と日本が似ている国なのだと実感するとともに、他の異国の国と
の関係にも興味が湧くばかりです。私たちはいずれグローバルな世の中で生活していく
ので、外国語能力の大事さをひしひしと感じました。私たちの活動が日韓のかけ橋に貢



献できていることを誇りに思いました。

ホームステイ中はいつもスルギさんと一緒でした。そして研修中は、一年生の研修団
員と研修団員のホストファミリーとも一緒でした。輪はどんどん広がり、ホストファミ
リー以外の韓国人学生ともたくさん知り合い、仲良くさせてもらいました。ここまで友
情の輪が広がる研修は予想しておらず、大変貴重な経験をさせていただきました。これ
からもEメール等を通じて連絡を取っていきます。



祥明大学にて



お別れパーティにて

今回の貴重な体験は、祥明大学と熊本県立大学の交流における韓国研修でないと得ら
れないかけがえのない宝物です。また一つ、豊かな経験を増やすことができました。こ
の研修に関わってくださったすべての方にお礼を申し上げます。ありがとうございました。
そして、今回の研修で得たものを自分に留めておくだけでなく、自分から発信
できるように、これからも勉学に経験に体験に、励んでいきたいです。